

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	粒子線がん治療に係る人材育成プログラム		担当部局庁	研究振興局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度～		担当課室	研究振興戦略官付		研究振興戦略官 岡村 直子		
会計区分	一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題への取組				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	粒子線治療固有の知識・技術を有した放射線腫瘍医、医学物理士等の中核的な役割を果たす専門人材を、5年間で40名程度育成し、全国各地において導入が計画されている粒子線がん治療施設のニーズに対応していくことで、本治療技術の普及・促進に貢献する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	粒子線がん治療固有の知識・技術を有した放射線腫瘍医、医学物理士等の中核的な役割を果たす専門人材を5年間で40名程度育成する。具体的には、人材育成カリキュラムを制定するとともに、粒子線がん治療について十分な知識・経験を有する8機関を最大限活用してOJT(On the Job Training)による研修を実施する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	80	80	71	-	-	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	80	80	71	-	-	
		執行額	80	79	70	-	-	
	執行率(%)	100.0%	98.8%	98.6%	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (23年度)
	研修修了者数(累積)		成果実績	人	6	12	25	40
			達成度	%	15%	30%	62%	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	研修開始者数(累積)		活動実績 (当初見込み)	人	17	30	41	-
					(30)	(36)	-	
単位当たりコスト	人材1人あたりのコスト (14百万円/人)		算出根拠	単位当たりコスト = H23までに事業に投入した経費(351百万円) / 育成した人材の数(25人)				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
		計	-	-				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	当事業は、第4期科学技術基本計画及び日本再生の基本戦略等において重要事項として位置づけられているライフィノベーションに資するものであり、国として事業の進捗を管理しながら推進する必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定に当たっては、十分な広告期間を設け、HP等で周知した上で公募を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。 なお、委託費の交付決定に当たっては、事業経費の費目・用途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	当事業は、研究の推進に当たって、粒子線がん治療について十分な知識・経験を有する機関を選定して集中的にOJTを実施することで、効率的かつ実効性の高い運用を行っている。 また、事業の進捗状況及び育成体制、各機関の育成結果について評価し、意見を述べる有識者委員会を設置することで、事業の着実な実施に努めた。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	△	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	平成23年度までの研修開始人数は累積で41人に達し、本事業の目標である40名程度の人材育成を達成しており、粒子線がん治療技術の普及・促進に貢献している。なお、研修期間が複数年度に及ぶ研修に関し、平成23年度中には研修を終えることができていない未修了者が複数名残っているが、これらの者に対しては、受託者が自主的に、引き続き研修を行うこととしている。		
予算監視・効率化チームの所見			
	平成22年度文部科学省予算・監視効率化チーム行政レビューの指摘を踏まえ、平成23年度をもって廃止している。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
	-		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
本事業は、H22年度文部科学省予算監視・効率化チーム行政レビューにおいて、事業の効率化を一層進めることで予算を縮減しつつ、継続課題が終了する平成23年度をもって廃止するべきであるとの指摘を受けたことを踏まえ、平成23年度において事業を廃止したものである。			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0260	平成23年行政事業レビュー	0245

文部科学省
70 百万円

人材育成カリキュラムを制定し、粒子線がん治療についての研修を実施する実施機関を公募・選定するとともに、委託契約及び資金の適切な使用等に関するマネジメントを実施

【公募・委託】

A:粒子線がん治療に係る人材育成
支出総額:70百万円
大学・病院等(全8機関)

人材育成カリキュラムを制定するとともに、既に粒子線治療について十分な知識・経験を有する既存8機関がOJTによる研修を実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位:百万円)

A.財団法人医用原子力技術研究振興財団			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
業務実施費	雑役務費(人材育成ホームページのサーバーの使用料と保守、ハードウェア保守、資料整理作業等)	6			
	印刷製本(各種テキスト、パンフレット、ポスター)	3			
	旅費(各種委員会出席、講師旅費)	5			
	諸謝金(各種委員会出席、講師、テキスト原稿謝金)	2			
	その他(消耗品費、会議開催費、通信運搬費、借損料、消費税相当額、一般管理費)	5			
人件費	業務担当職員に係る人件費	17			
計		38	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A. 粒子線がん治療に係る人材育成

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	財団法人医用原子力技術研究振興財団	中核機関として、各種委員会を主催・運営するとともに、人材育成カリキュラム等の作成・改訂、専門講師派遣等の研修支援、啓発・広報活動等を実施。	38	企画競争	-
2	独立行政法人放射線医学総合研究所	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定等に協力するとともに、粒子線に係る物理・生物等基礎講義・実験実習全般、重粒子線治療に係るOJTを実施。	9	企画競争	-
3	静岡県立静岡がんセンター	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定に協力するとともに、実践的な診療対応能力の習熟を目標にしたOJTを実施。	5	企画競争	-
4	国立大学法人筑波大学	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定に協力するとともに、陽子線治療に関わる専門的業務のOJTを実施。	4	企画競争	-
5	国立大学法人大阪大学	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定等に協力するとともに、セミナー・基礎研修講座の開催、育成プログラムに資する資料の作成等を実施。	4	企画競争	-
6	兵庫県立粒子線医療センター	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定等に協力するとともに、陽子線及び炭素線による治療の対比を念頭に置いた基礎的実習、臨床的実習、放射線技術的・物理的実習に係るOJTを実施。	4	企画競争	-
7	財団法人若狭湾エネルギー研究センター	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラム等の策定等に協力するとともに、実験実習及び陽子線治療に係るOJTを実施。	3	企画競争	-
8	独立行政法人国立がん研究センター東病院	各種委員会へ参画・連携し、人材育成カリキュラムの策定、育成に要する施設の整備計画立案及び評価・認定方法の策定などを行いながら、放射線診断部等の他科との連携を持つがん医療環境を活用した統合的ながん医療のOJTを実施。	2	企画競争	-

※平成19年度に公募を行っているもの。